

全道

第73回

身体障害者 福祉大会

帯広大会

日 時 令和7年9月29日(月) 9:30~12:30

場 所 ホテル日航ノースランド帯広 帯広市西2条南13丁目1番地

主催：一般社団法人 北海道身体障害者福祉協会 一般社団法人 帯広身体障害者福祉協会

共催：帯広市 社会福祉法人帯広市社会福祉協議会



大会スローガン

一、北身協および加盟団体の
組織強化を図ろう

二、心のバリアフリーを
地域に根づかせよう

三、障害者権利条約総括所見を
踏まえた地域共生社会を
実現させよう

目 次

大会スローガン

大会長あいさつ 一般社団法人北海道身体障害者福祉協会会長 田 中 利 和 1

歓迎のことば 帯広市長 米 沢 則 寿 2

大会次第 3

大会役員 4

後援団体 4

令和7年度北海道善行賞受賞者名簿 5

令和7年度日本身体障害者福祉連合会会長表彰受賞者名簿 5

令和7年度北海道身体障害者福祉協会会長表彰受賞者名簿 6

＜講 演＞ 8

＜全体会議＞

第72回弟子屈大会 要望事項処理報告 20

第73回帯広大会提出議案 24

大会宣言(案) 28

大会決議(案) 29

＜第73回帯広大会 関係資料＞

実行委員会名簿 30

第73回帯広大会参加団体一覧 31

全道身体障害者福祉大会 開催地一覧表 32

会場案内図 33

大会長あいさつ



一般社団法人北海道身体障害者福祉協会

会 長 田 中 利 和

第73回全道身体障害者福祉大会帯広大会の開催にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

全道各地から多くの皆さまにお集まりいただき、豊かな自然に囲まれた十勝平野の中央に位置し、産業・経済、教育・文化、医療・福祉などの広域的な都市機能が集積するここ帯広市において、第73回全道身体障害者福祉大会を開催することができましたことは、心から嬉しく思います。

大会の開催にあたりましては、帯広市、帯広市社会福祉協議会の皆さまをはじめ、地元、帯広身体障害者福祉協会、十勝地区身体障害者福祉協会の皆さまには大変なご尽力をいただきましたことを、心から感謝を申し上げます。

また、永年にわたり地域社会で、ご自身がその障がい克服され、懸命に努力されましたこと並びに障がい福祉活動、援護活動などが評価され、本日、表彰される皆さま方には心からお祝いと感謝を申し上げます。

これからもご健康に留意され、それぞれの地域で、より一層ご活躍されますことをご祈念申し上げます。

さて、昨年4月1日から改正障害者差別解消法が施行され、これまで努力義務とされていた民間事業者による合理的配慮の提供が義務化されました。

今後、本法律の実効性を一層、高めるためには、地域において心のバリアフリーの理解を深め、普及していくことが、以前にも増してますます重要となっています。

北海道身体障害者福祉協会では、こうした法律の普及啓発を行うとともに様々な補助事業や委託事業等を通して、加盟団体の皆さまと組織強化を図りながら、北身協の活動にご支援いただいている関係団体、企業の皆さまと一緒に、北海道に根ざした心のバリアフリーを広げ、障がい者差別のない誰もが住みやすい地域社会をめざして、一層努力をしてまいりたいと考えております。

結びに、本大会にご参加いただきました皆さまのご健勝と今後ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、大会の開催にご尽力いただきました帯広市をはじめ関係各位の皆さまにお礼を申し上げ、ごあいさつといたします。

歓迎のことば



帯広市長 米沢 則寿

澄みわたる青空と緑豊かな自然、そして肥沃な大地に恵まれた十勝・帯広の地において、「第 73 回全道身体障害者福祉大会」が開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

また、全道各地よりお越しいただいた皆様を、帯広市を代表して心より歓迎いたします。

本大会は、昭和 27 年の初開催以来、障害のある方々の福祉増進を図るため、生活の安定に向けた社会参加の促進などを目的として継続されてきた、歴史と伝統ある大会です。これまでに多くの方々が関わり、支え合いながら歩みを進めてこられたことに、深く敬意を表します。

今回の大会では、社会的に価値のある活動に対する表彰や、共生社会の実現に向けた決議などが行われるものであり、障害の有無にかかわらず、互いに尊重し支え合いながら暮らしていく社会づくりを進めるうえでの、大きな契機となることを期待しております。

帯広市におきましては、「フードバレーとかち」の取り組みのもと、十勝の豊かな食や自然、そして地域資源を最大限に生かしながら、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを進めております。本大会を通じて、地域の温かさや魅力にも触れていただき、心に残るひとときをお過ごしいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました北海道身体障害者福祉協会をはじめ、関係各位、並びに多くの支援者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、皆様のご健勝と今後ますますのご活躍を祈念申し上げ、ごあいさついたします。

大 会 次 第

式典及び表彰

9 : 3 0

- | | | |
|-----------|--|-------------------------------|
| 開会のことば | 副大会長（北海道身体障害者福祉協会副会長） | 大 橋 俊 彦 |
| 1 国歌斉唱 | | |
| 2 黙 禱 | | |
| 3 主催者あいさつ | 大会長（北海道身体障害者福祉協会会長） | 田 中 利 和 |
| 4 歓迎のことば | 帯広市長（名誉大会長） | 米 沢 則 寿 |
| 5 表 彰 | 北海道善行賞
日本身体障害者団体連合会会長表彰
北海道身体障害者福祉協会会長表彰 | |
| 6 祝 辞 | 北 海 道 知 事
北海道議会議長
帯広市議会議長 | 鈴 木 直 道
伊 藤 条 一
横 山 明 美 |
| 7 来賓紹介 | | |
| 8 祝電披露 | | |
| 9 謝 辞 | 受賞者代表 | 八雲町 佐 橋 忠 男 |
| 閉 式 | | |

講 演

1 0 : 4 5

- ◆演 題 「夢、出会い、感謝」～車いすママのできること～
◆講 師 元NHKリポーター・FMJAGAラジオパーソナリティー
千葉 絵里菜 氏

全体会議

1 1 : 3 0

- | | | |
|--------------|-----------------------|---------|
| 1 開 会 | | |
| 2 議長団選出・あいさつ | | |
| 3 第72回大会処理報告 | 北海道身体障害者福祉協会常務理事・事務局長 | 佐 藤 裕 人 |
| 4 審 議(要望事項) | | |
| 5 大会宣言提案・採択 | 北海道身体障害者福祉協会監事 | 石 川 陽 子 |
| 6 決議提案・採択 | 北海道身体障害者福祉協会理事 | 加 藤 強 |
| 7 議長団退任 | | |
| 8 次期開催地・挨拶 | 北海道身体障害者福祉協会会長 | 田 中 利 和 |
| 9 万歳三唱 | 北海道身体障害者福祉協会代表監事 | 西 田 悦 朗 |
| 10 閉会のことば | 副大会長（北海道身体障害者福祉協会副会長） | 白 幡 浩 |

閉 会

1 2 : 3 0

大 会 役 員

名誉大会長	帯広市長	米 沢 則 寿
名誉副大会長	帯広市議会議長	横 山 明 美
〃	社会福祉法人帯広市社会福祉協議会会長	畑 中 三岐子
大会長	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会会長	田 中 利 和
副大会長	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会副会長	大 橋 俊 彦
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会副会長	白 幡 浩
大会参与	帯広市副市長	池 原 佳 一
〃	帯広市議会副議長	檜 山 直 義
〃	帯広市教育委員会教育長	広 瀬 容 孝
〃	北海道民生委員児童委員連盟帯広支部長	長谷川 克 夫
運営委員	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会常務理事	佐 藤 裕 人
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会理事	阿 部 喜美夫
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会理事	齊 藤 徹
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会理事	須 佐 理恵子
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会理事	佐 橋 忠 男
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会理事	加 藤 強
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会理事	澤 俊 平
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会代表監事	西 田 悦 朗
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会監事	石 川 陽 子

後 援 団 体

北海道
 社会福祉法人北海道社会福祉協議会
 社会福祉法人北海道共同募金会
 公益財団法人北海道民生委員児童委員連盟
 日本赤十字社北海道支部
 帯広市教育委員会
 公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金

令和7年度北海道善行賞受賞者名簿

【自立活動者】1名（敬称略）

市 町 村 名	氏 名
当 別 町	にし かわ えい こ 西 川 英 子

【自立支援功労者】4名（敬称略）

市 町 村 名	氏 名
紋 別 市	ふじ た こうたろう 藤 田 孝太郎
滝 川 市	かわ ぐち き よ こ 川 口 きよ子
函 館 市	まつ お えつ こ 松 尾 悦 子
長 沼 町	やま がみ や え こ 山 上 八重子

令和7年度日本身体障害者団体連合会 会長表彰受賞者名簿

市 町 村 名	氏 名
白 糠 町	いし だ まさ よし 石 田 正 義

令和7年度北海道身体障害者福祉協会 会長表彰受賞者名簿

【自立更生者表彰】 4 名（敬称略）

市 町 村 名	氏 名
北 見 市	いの した まさ ゆき 井 下 正 幸
厚 真 町	とみ なが よう こ 富 永 洋 子
せたな町	いわ はら まさ ひろ 岩 原 正 浩
せたな町	やま いし せつ お 山 石 節 男

【援護功労者表彰】 11名（敬称略）

市 町 村 名	氏 名
北 見 市	しら はた ひろし 白 幡 浩
小 樽 市	あ た か ゆき よ 安 宅 幸 代
函 館 市	さか もと えつ こ 坂 本 悦 子
八 雲 町	さ はし ただ お 佐 橋 忠 男
仁 木 町	せ お かず はる 妹 尾 和 治
せたな町	ひら かわ たか き 平 川 孝 喜
砂 川 市	おお はし とし ひこ 大 橋 俊 彦
豊 頃 町	たか の まさ かつ 高 野 政 勝
浦 幌 町	くま の たか お 熊 野 孝 雄
帯 広 市	あ ぼ たけ お 阿 保 武 男
登 別 市	あら き や よ い 荒 木 やよい

【特別功労者表彰】 2名（敬称略）

市 町 村 名	氏 名
士 別 市	にし だ えつ ろう 西 田 悦 朗
岩 見 沢 市	かま た いさむ 鎌 田 勇

講演

演題

「夢、出会い、感謝」
～車いすママのできること～



講師

ちば えりな
千葉 絵里菜 氏

元 NHK リポーター
FM JAGA ラジオパーソナリティー

MEMO



夢、出会い、感謝 ～車いすママのできること～

元NHKリポーター・FMJAGAラジオパーソナリティ
千葉絵里菜

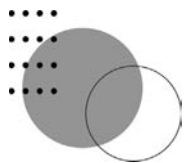


千葉 絵里菜

ERINA CHIBA

1994年11月3日生まれ



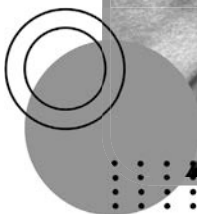


脳性まひとは？

出産前～生後4週間以内の時期に受けた
脳の傷によって起こる障害
運動障害・知能低下や摂食障害・呼吸機能
障害などが見られる

私の症状

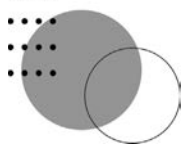
自分の意思と関係なく体が動いてしまう
不随意運動と硬直



私の歩み

MY HISTORY





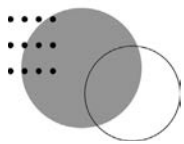
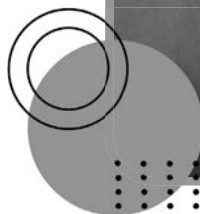
保育園

・ 肝臓移植後、免疫抑制剤を服用していたため
保育園入園にドクターストップが...

1年後の年中クラスから入園

・ 保健師さん・リハビリの先生が
入園準備に関わってくれた

笑顔の毎日をおすごしました



小学校

・ 共に歩む会に参加

・ 地域の学校に通うために沢山の人が沢山の時間
をかけて入学準備をしてくれた

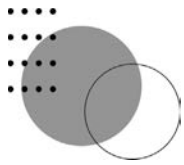
・ 小学校の受け入れ条件は

「母か介助員さんが常につくこと」

3年生で介助員さんが毎日つくようになり
母の負担も減った

周りと自分を比べる学校生活



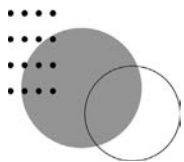


中学校

2人の恩人との出会い

- ・私を特別扱いせず板書を勧めてくれた担任の先生
- ・文字を書く練習、友達作りの方法を教えてくれた介助員さん

友達もでき遊びに出かけるように



高校

私立高校に進学を決め、学校見学に

入学受け入れの条件

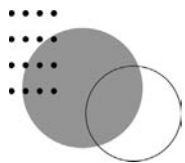
- ・介助員さん
- ・机
- ・昇降機 の用意

付き添いなしの行事参加

私にとって

憧れだった学生生活を送ることができた





大学

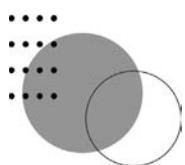
自立生活を送れるようになりたい
福祉の勉強をしたい

→大学進学を決意

- ・居宅介護と友人の助けを借りて一人暮らし
- ・バリアフリー委員会を始めとした
学習の合理的配慮

みんなと楽しく大学生活を
送ることができました。

年度 札幌学院大学 卒



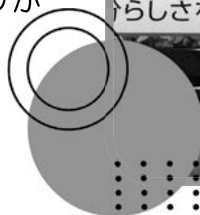
NHKリポーター

NHKの公募に応募し合格

重度訪問介護を利用し東京で生活
言葉選びの重要性に気がつく

リポーターの仕事で身についたスキルが
現在の活動にも生きている

「伝える仕事」は天職だ



東京2020パラリンピックについて

概要

162国・地域 全4403名参加

競技数22競技 539種目

日本は金メダル13個

銀メダル15個

銅メダル24個

計51個のメダル獲得

私の担当競技

ボッチャ ゴールボール
パラ馬術 パラ卓球

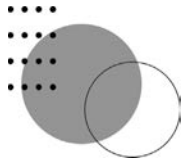
感じたこと

自分の体の研究者たちの集まり
工夫する努力を教えてくれた
仲間がこんなにいるんだ

子供を授かるまで

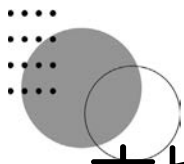
- ・ 多嚢胞性卵巣症候群という排卵
が起こりにくくなる病気
- ・ 子宮外妊娠
- ・ 東京出張で妊娠発覚





出産時

- 札幌医科大学にて出産
- 1ヶ月半の長期入院
- 産婦人科・麻酔科・リハビリ科
がチーム一丸となってサポート
してくれた

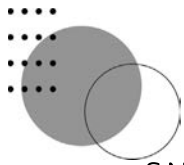


育児する上で 大切にしていること

家族やヘルパーさんと娘を育てる時間を
大切にしながら自分で決めて育児をしている。

みんなで育児をやることにおもきを置いている



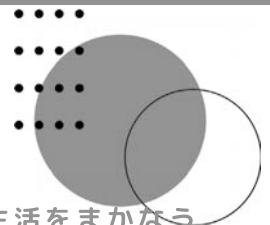


現在の生活

SNS発信などの活動も行なっている
FM JAGAラジオパーソナリティ
・重度訪問介護を利用
7～22時を3交替で回している
夫・両親・友人に支えてもらいながら
育児を楽しんでいる

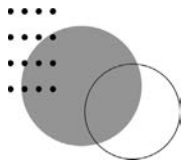


重度訪問介護とは



「自立（生活）とは、どこに住むか、いかに住むか、どうやって自分の生活をまかなうか、を選択する自由をいう。それは自分が選んだ地域で生活することであり、ルームメートを持つか一人暮らしをするか自分で決めることであり、自分の生活一日々の暮らし、食べ物、娯楽、趣味、悪事、善行、友人等々すべてを自分の決断と責任で行っていくことであり、危険を冒したり、誤ちを犯す自由であり、自立した生活をするによって、自立生活を学ぶ自由でもある。」

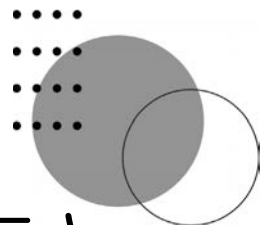
重度障害がある障害支援区分4以上の常に介護を必要とする人に
ヘルパーが自宅を訪問し、介護・家事・育児など
生活全般にわたる援助が受けられる制度



これまでの振り返って

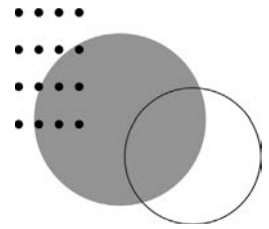
たくさんの人に支えられてきた人生

障害があっても本人のやる気さえあれば
可能性は無限大



やりたいこと

たくさんの講演をして、子ども
のころから障害のある人と関わることで
多様性が広がる。全国各地の学校を
ぜんぶ巡りたい。



これからのこと

車いすのママがいること
障害があっても人の助けを
借りれば子育てできること
社会全体に広めたい

そして重度訪問介護事業所
を開きみんなが楽しめる

各種SNS

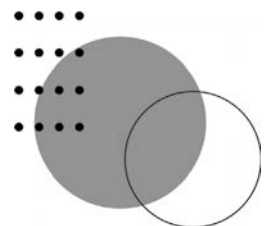
CONTACT ADDRESS

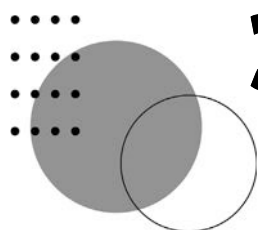
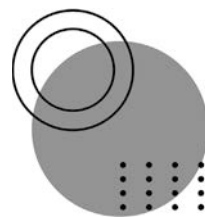
Instagram @emery_mamastyles

note 千葉絵里菜【車いすママ】

FMJAGA 毎週金曜日15:35~
千葉絵里菜のみんなの色

ご連絡はこちら
emery.official.20211001@gmail.com





ご清聴
ありがとうございます
ございました。



第72回 弟子屈大会要望事項処理報告

1 バリアフリースイールの設置拡大について

(釧路地区身体障害者福祉協会)

【現状と課題】

北海道には、海外や道外から多くの観光客が訪れ、観光地は大いににぎわっています。

また、障がい者の社会参加が進み、車椅子を使用する障がい者等も観光に出かけるようになりました。

公共施設やホテル、病院、高速道路のパーキングエリア等では、バリアフリースイールの設置が増えているように感じられますが、身体障害者福祉協会等では、身体障害者福祉大会をはじめ、障害者スポーツ大会など障害者福祉協会会員がバス等で移動する場合も多く、このような場合に車いす等の障害者がまとまってトイレを利用したいと思っても、バリアフリースイールが少なく、トイレを長時間待たなければならない状況が生じています。

【要望事項】

多くの施設でトイレのバリアフリー化がさらに進みますとともに、1施設当たりのバリアフリースイールの設置数が増加されますよう補助金等の財政支援の創設や関係機関・団体等への働きかけについて要望します。

(回答：北海道)

国においては、バリアフリー化に対する社会的要請が高まっていることを踏まえ、現在、建築物に1以上の設置を求めている「車椅子使用者用便房」について、原則、建築物の階ごとに1以上の設置が必要となるなど、トイレに係るバリアフリー基準が見直されることとなり、道としても、今後、国の基準を満たすよう、北海道福祉のまちづくり条例に基づく整備基準の見直しを行うこととしております。

道としては、今回の要望について、北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会の構成団体に伝えるとともに、関係者がそれぞれバリアフリーの推進の現状を共有し、整備に取り組むよう働きかけてまいります。

2 車いすによる踏切事故の防止について

(釧路地区身体障害者福祉協会)

【現状と課題】

近年、電動車いす等に乗車中、踏切内で前輪が線路の溝部分に入り込んで操縦できなくなったり、車輪が脱輪して立ち往生したりして、踏切内で列車にはねられ死亡するといった痛ましい事故が発生しています。

今後、障害を持つ高齢ドライバーが運転免許証返納後、電動車いすを利用するが増加すると考えられ、それに伴い事故の増加なども心配されます。

【要望事項】

踏切の管理者や電動車いすの製造会社などが連携して、痛ましい事故が二度と起きないよう各関係機関に対策を進めていただくことを要望します

(回答：北海道)

関係課へ情報提供の上、踏切における安全性の向上に資する設備整備が図られるよう、鉄道事業者へ対応を求めてまいります。

3 聴覚障害者への合理的配慮提供を示す方法としての「耳マーク」掲示について

(一般社団法人函館市身体障害者福祉団体連合会)

【現状と課題】

「聞こえない・聞こえにくい」と、日常生活の上で人知れず苦勞をします。

聴覚障害者は、障害そのものが外見から分かりにくいために誤解をされたり、不利益を受けたり、危険にさらされることがあるなど、社会生活の上での不安は数多くあります。

また、難聴の程度や種類により、聞こえない・聞こえにくい状況は千差万別であり、自分の聞こえの障害を受容しきれていない方は、その場でうまく説明できず、必要な配慮を依頼できずに、会話の理解や応答があいまいなまま、不本意ながらもやり過ごしてしまうことが多々あります。

【要望事項】

「聞こえない・聞こえにくい方への配慮提供を示す「耳マーク」の掲示、使用について」

障害者差別解消法の施行により、障害当事者が申し出ること必要な配慮がなされる場面が増えてきましたが、障害を受け止めきれていない聴覚障害当事者は、自分から申し出ること躊躇するケースも多くあります。

この解消方法の1つとして、行政窓口等に「耳マーク」の掲示で、配慮の提供があることを示すことで、障害当事者側から配慮の申し出がしやすくなるものと考えます。

合理的配慮の一環として、北海道自治体、関連機関・施設の窓口で「耳マーク」を掲示いただきたく、要望します。

(回答：北海道)

道では、障がいのある方への配慮などをまとめた「障がいのある方への配慮と情報保障のための指針」を策定し、その中で耳マークを紹介しており、これまで市町村や関係団体などに周知しているところです。

4 障がい者雇用の推進について

(一般社団法人北見身体障害者福祉協会)

【現状と課題】

現在、障がい者団体等や就労支援事業所では、公共部門や一般企業からの委託事業により事業の運営資金とし、その結果、障がいのある方々の雇用につながっています。

しかし、現在は委託事業の減少や委託料の減少により厳しい状況となっています。

今後、障がいのある方々の就労率向上のため、委託事業（委託金額）の発注量増加が求められています。

【要望事項】

- 1 障がい者雇用率制度において、発注額に応じて障がいのある人を雇用したとみなし、障がい雇用率にカウントする。
- 2 発注額に応じ、納付税額を減額する。

（回答：北海道）

障がい者雇用率や納付税額については、国が制度設計しているところですが、道としても、障がい者の就労支援のため、関係機関と連携しながら取り組みを進めてまいります。

第73回全道身体障害者福祉大会提出議題（要望事項）

1 宿泊施設のバリアフリー化の推進について

（一般社団法人釧路身体障害者福祉協会）

【現状と課題】

私たち身体障害者は、基礎疾患などの持病を抱える方も多く、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期間は極力外出を控え、会員同士の集まりを控えていました。

コロナ禍が下火となり身体障害者福祉協会では、湯治運動などのレクリエーションや、全道身体障害者福祉大会への参加など、宿泊を伴う行事を再開しています。家から外へ出て、会員同士が親睦を図ることの素晴らしさを改めて実感しています。

しかし、訪日外国人観光客の増加や昨今の物価高騰などの影響により、宿泊施設の確保が困難を極めています。大手ホテルチェーンなどはバリアフリー化が進んでおり身体障害者も利用しやすくなりましたが、すべての宿泊施設が対応しているわけではありません。

やむを得ずバリアフリー化が進んでいない宿泊施設を利用する場合は、参加会員同士ができる範囲で助け合っていますが、高齢化が進んでいるため、介助をするのにも危険な場面が散見されます。改正障害者差別解消法が施行され、昨年度から民間事業者にも合理的配慮が義務付けされております。

【要望事項】

身体障害者が安心・安全に旅行を楽しめるよう、宿泊施設のバリアフリー化、あわせて施設内に少なくとも1か所以上の多目的トイレの設置が進みますよう、国・地方公共団体が補助金等の財政支援を行うとともに、関係機関等への働きかけについて要望します。

2 北海道知事会見(LIVE 配信)への字幕付与について

(一般社団法人函館市身体障害者福祉団体連合会)

【現状と課題】

北海道意思疎通支援条例や、情報アクセシビリティ法の施行で、多様な意思疎通支援について明記されているところです。

聴覚障害者は、手話だけではなく文字情報を必要とする方も多くおりますが、現時点で北海道知事の会見（LIVE 配信）には字幕等の文字情報がありません。

【要望事項】

聴覚障害者が「同一時点」で「同一内容」の情報取得ができるよう、字幕付与をお願いします。

※技術的には、音声認識アプリ(UD トークなど)を活用する手法が考えられます。

3 聴覚障害者への支援の推進について

(釧路地区身体障害者福祉協会鶴居村分会)

【現状と課題】

昨年、開催されたあるスポーツ大会に参加した身体障害者手帳第 1 種 3 級を所持する聴覚障害のある会員より、ルール説明が十分に聞き取れなかったこと、また交流会においても周囲の雑音により会話が聞き取りづらく、とても寂しい思いをされたとのこと意見が出されております。

【要望事項】

聴覚に障害のある方々が安心して参加できるよう、「ヒアリンググループシステム」の設置（可動式システムの導入を含む）並びに筆記通訳、要約筆記など聞こえのバリアフリーの推進について、関係機関等へ働きかけていただきたい。

4 盲ろう者通訳・介助員派遣事業に係る費用負担について

(一般社団法人北海道身体障害者福祉協会)

【現状と課題】

盲ろう者通訳・介助員派遣事業において、通訳・介助員の業務時間に要する交通費・参加費・入場料・施設利用料などは利用者（盲ろう者）が負担することになっている。

利用者（盲ろう者）自身が移動する場合の交通費については、利用者分と通訳・介助員分の2名分の交通費を負担しなければならず、通訳・介助員が2名派遣の場合には3名分を負担しなければならない。

利用者にとって負担は大きく、外出などをためらう利用者も多く、社会参加の妨げになっている。

【要望事項】

通訳・介助員の移動に係る交通費については、公費負担あるいは人数分の割引が適用されるよう、鉄道事業者や各種交通機関に強く働きかけていただきたい。

大会宣言(案)

全道から参加した多くの仲間とともに、第73回全道身体障害者福祉大会帯広大会を盛大に開催することができました。

北海道身体障害者福祉協会は、障害者権利条約を踏まえ、障害当事者参加のもと、障害者施策の促進と障害特性に配慮した社会環境の整備が図られるよう、加盟団体と強く連携し、全力で活動してまいりました。

また、障害者が孤独、孤立に陥らないためにも障害及び障害者に対する国民的理解を地域に根づかせるべく、私たちが主体となって取り組んでいかなければなりません。

そして、障害のある私たち一人ひとりが発信者となり、社会生活において、困っていること、改善解消を必要とすることを伝え、相互理解を深めていかなければなりません。

さらに、改正障害者差別解消法に関する理解の普及啓発を進めるとともに、その実効性を高めることに向けて、障害者関係団体と連携して取り組んでまいります。

北海道身体障害者福祉協会に結集する私たちは、障害によって分け隔てられることなく、誰もが安心安全に暮らせる地域共生社会の実現を目指して、一致団結し、行動することを誓い、ここに宣言します。

令和7年9月29日

第73回全道身体障害者福祉大会帯広大会

大会決議（案）

- 一． 障がいの社会モデルの理解啓発を道内全域で進めよう
- 一． 障害当事者参画のもとで障害関係施策を促進させよう
- 一． 実効性のある災害時の障害者支援体制を構築させよう
- 一． 北身協と加盟団体連携のもと、組織体制の強化と活性化を図ろう
- 一． 改正障害者差別解消法の理解啓発を促進させよう

令和 7 年 9 月 2 9 日

第 7 3 回全道身体障害者福祉大会帯広大会

第 7 3 回全道身体障害者福祉大会帯広大会 実行委員会名簿

役 職 名	所 属	氏 名
委 員 長	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会会長	田 中 利 和
副委員長	帯広市市民福祉部福祉支援室障害福祉課長	幸 田 賢 一
〃	社会福祉法人帯広市社会福祉協議会常務理事・事務局長	東 堂 秀 胤
〃	十勝地区身体障害者福祉協会会長	齋 藤 徹
〃	一般社団法人北海道身体障害者福祉協会常務理事・事務局長	佐 藤 裕 人
委 員	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会副会長	阿 保 武 男
〃	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会副会長	中 井 登美男
〃	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会常務理事・事務局長	森 山 雅 昭
〃	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会理事	菊 地 淳
〃	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会理事	鈴 木 英 晴
〃	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会理事	佐々木 政 幸
〃	帯広市手をつなぐ育成会会長	畑 中 三岐子
監 事	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会監事	稲 田 満紀子
〃	一般社団法人帯広身体障害者福祉協会監事	寺 町 修

第73回帯広大会参加団体一覧

渡島地区身体障害者福祉協会

根室地区別海町身体障がい者福祉協会

檜山地区せたな町身体障害者福祉協会

根室地区羅臼町身体障がい者福祉協会

空知地区妹背牛町身体障害者福祉協会

一般社団法人函館市身体障害者福祉団体連合会

空知地区長沼町身体障害者福祉協会

一般社団法人小樽市身体障害者福祉協会

宗谷地区中頓別町身体障害者福祉協会

一般社団法人釧路身体障害者福祉協会

網走地区身体障害者福祉協会大空分会

一般社団法人帯広身体障害者福祉協会

網走地区身体障害者福祉協会佐呂間分会

一般社団法人北見身体障害者福祉協会

網走地区身体障害者福祉協会湧別分会

苫小牧身体障がい者福祉協会

日高管内新ひだか町静内身体障害者福祉協会

芦別市身体障害者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会

紋別市身体障害者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会大樹分会

士別市身体障害者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会音更分会

滝川身体障害者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会鹿追分会

砂川身体障害者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会芽室町分会

登別身体障害者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会豊頃町分会

伊達身体障がい者福祉協会

十勝地区身体障害者福祉協会浦幌分会

石狩市身体障害者福祉協会

釧路地区鶴居村身体障害者福祉協会

北海道視覚障害者福祉連合会

釧路地区身体障害者福祉協会白糠分会

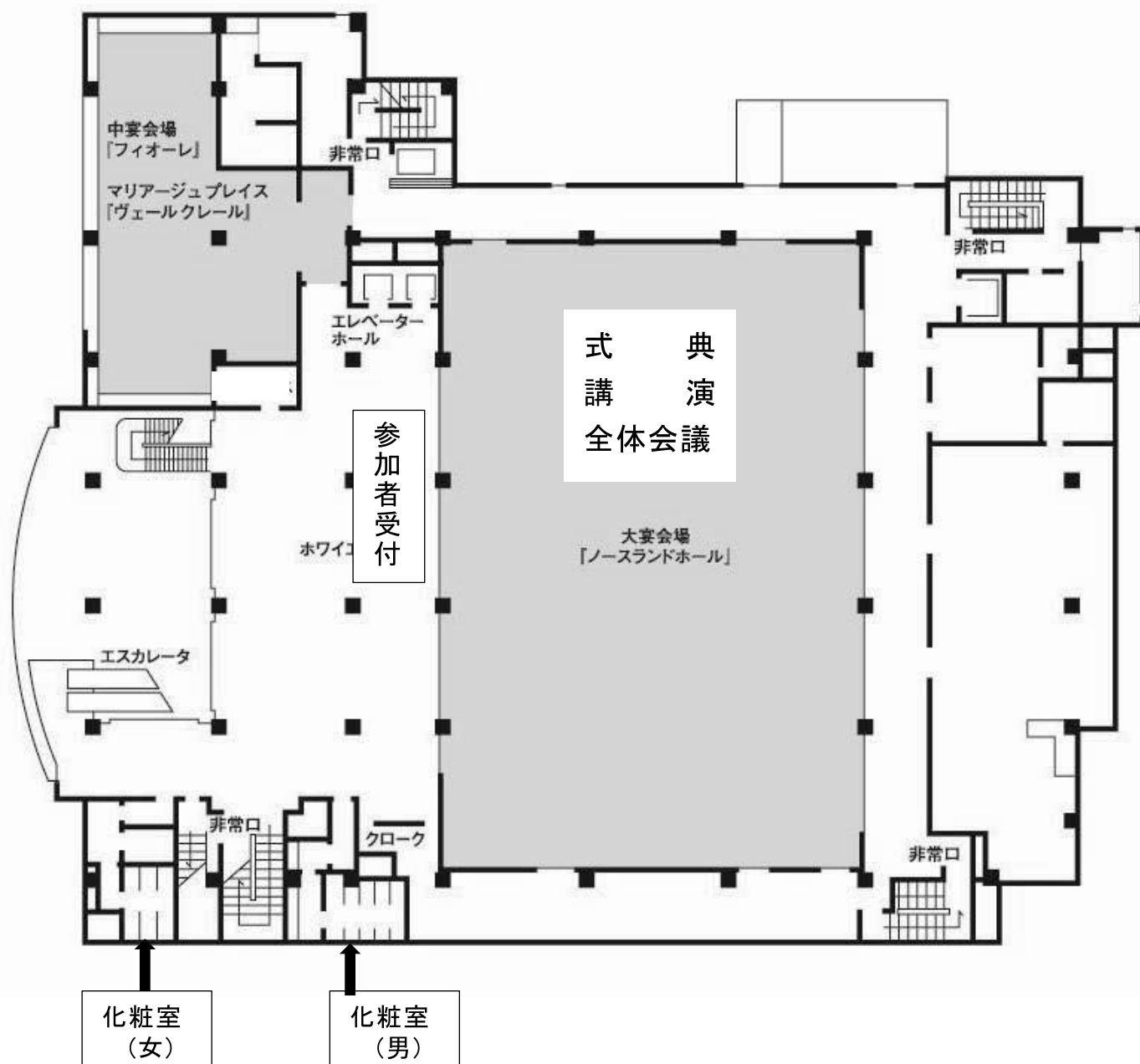
一般社団法人北海道身体障害者福祉協会

全道身体障害者福祉大会 開催地一覧表

回 数	開 催 年 月	開 催 地	回 数	開 催 年 月	開 催 地
1	1952年6月	札 幌 市	37	1988年7月	函 館 市
2	1953年6月	小 樽 市	38	1989年7月	釧 路 市
3	1954年7月	釧 路 市	39	1990年7月	砂 川 市
4	1955年12月	函 館 市	40	1991年7月	滝 川 市
5	1956年6月	札 幌 市	41	1992年7月	紋 別 市
6	1957年6月	旭 川 市	42	1993年7月	室 蘭 市
7	1958年6月	小 樽 市	43	1994年7月	留 辺 蘂 町
8	1959年7月	室 蘭 市	44	1995年7月	稚 内 市
9	1960年8月	美 唄 市	45	1996年7月	江 別 市
10	1961年8月	帯 広 市	46	1997年9月	小 樽 市
11	1962年8月	士 別 市	47	1998年8月	芦 別 市
12	1963年8月	苫 小 牧 市	48	1999年10月	北 見 市
13	1964年8月	千 歳 市	49	2000年10月	名 寄 市
14	1965年8月	岩 見 沢 市	50	2001年10月	旭 川 市
15	1966年7月	函 館 市	51	2002年10月	釧 路 市
16	1967年8月	赤 平 市	52	2003年10月	函 館 市
17	1968年7月	室 蘭 市	53	2004年10月	伊 達 市
18	1969年7月	旭 川 市	54	2005年10月	美 唄 市
19	1970年8月	札 幌 市	55	2006年10月	登 別 市
20	1971年7月	小 樽 市	56	2007年10月	弟 子 屈 町
21	1972年8月	帯 広 市	57	2008年10月	北 斗 市
22	1973年7月	釧 路 市	58	2009年10月	夕 張 市
23	1974年8月	北 見 市	59	2010年10月	帯 広 市
24	1975年7月	苫 小 牧 市	60	2011年9月	千 歳 市
25	1976年7月	美 唄 市	61	2012年9月	釧 路 市
26	1977年7月	函 館 市	62	2013年5月	札 幌 市
27	1978年7月	虻 田 町	63	2014年7月	函 館 市
28	1979年7月	留 辺 蘂 町	64	2015年9月	恵 庭 市
29	1980年7月	恵 庭 市	65	2016年9月	小 樽 市
30	1981年6月	砂 川 市	66	2017年10月	石 狩 市
31	1982年6月	室 蘭 市	67	2018年9月	札 幌 市※
32	1983年7月	旭 川 市	68	2019年10月	登 別 市
33	1984年6月	小 樽 市	69	2020年9月	深 川 市※
34	1985年7月	岩 見 沢 市	70	2021年10月	帯 広 市※
35	1986年7月	帯 広 市	71	2023年9月	紋 別 市
36	1987年6月	千 歳 市	72	2024年9月	弟 子 屈 町

※開催中止

ホテル日航ノースランド帯広 2階平面図



第73回全道身体障害者福祉大会 帯広大会

発行年月日 令和7年9月29日

編集者 第73回帯広大会実行委員会

発行者 一般社団法人 北海道身体障害者福祉協会
一般社団法人 帯広身体障害者福祉協会

印刷所 勇昇印刷有限会社
